

らいはいのうた

■楽曲データ

歌詞：仏典意訳

楽曲：伊藤完夫 作曲

発表：—

初演：—

初出：—

管理番号：M0188

■創作の経緯

1940年代の終わり頃、京都女子学園の礼拝用音楽として作曲された。歌詞は、蓮如上人450回遠忌の記念事業として行われた意識勤行（十二礼の意訳）。

■校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：『聖歌』浄土真宗本願寺派学校連合会 1963年

比較資料：『聖歌集 エレクトーン用』京都女子学園仏教文化研究所 1968年

校訂の詳細：特記事項なし

■解説

京都女子学園における仏教讃歌による勤行の試みのなかで生まれた作品のひとつです。献華偈・献灯偈・献香偈（いずれも伊藤完夫作曲）や、敬礼文・三帰依などと組み合わせ、音楽礼拝に使用できます。

◆作曲家について

伊藤完夫さん（1906～2005）は、愛知県生まれの作曲家・オルガニストです。1928（昭和3）年から10年ほど、東京市（当時）の公立小学校などに勤めながら、演奏活動を行いました。ことに、1931（昭和6）年からは、理学博士の田中正平に師事し、音響学・純正調オルガン奏法・日本音楽理論を学んでいます。

戦後の1948（昭和23）年に、増山顕珠京都女子大学学長に招かれて同大学の講師をつとめ、1964（昭和39）年に教授となり、数々の仏教讃歌を作曲しました。1988（昭和63）年には、仏教伝道協会の仏教伝道功労賞を受賞しています。また、武蔵野女子大教授も歴任し、築地本願寺のオルガニストもつとめました。

◆テキストについて

インドにお生まれになった七高僧の第一祖・龍樹菩薩がつくられた讃歌「十二礼」の意訳です。

阿弥陀さまの尊いお姿や、すべての人びとを慈しみはぐくんで、思いのままに救済されるお徳と、そのお浄土の聖者や美しいお莊嚴（ありさま）を讃えられ、人びとともにお浄土に生まれさせていただき、そのよろこびをともにしたいと願われています。（『日常勤行聖典』より）

歌う前に、十二礼全体の意味と意訳の言葉を確認しましょう。12番すべて歌うのが本来ですが、いくつかを抜粋して歌ってもよいでしょう。

◆歌い方について

音楽礼拝（法要）における経段です。

4番以降は楽譜に歌詞が記載されていないことが多いので、譜割り（歌詞を音符にどのように対応させるか）をあらかじめ確認しておきましょう。

◆音源など

音源は、CD『仏教讃歌一歌集』に収録されています（歌入り・カラオケの2種類）。

また、音楽法要で用いる楽曲の選び方については、本願寺仏教音楽・儀礼研究所ニューズレター『仏教音楽』第12号に特集として掲載していますので、ご参照ください。下記URL、QRコードからご覧いただけます。

http://j-soken.jp/files/nl/nl_012.pdf

